

〔町並み・宇和町〕

江戸幕末の佇まいを残す中町で、軒下に揺れる約2千個ほどの灯りは、格別風情があります。

灯りに思いを寄せる仲間、年毎に増え、会員も450人ほどになりました。現在、45人の実行委員が6年目の準備を始めたところです。

嬉しいことは、いくつもあります。実行委員さんたちは、協力的でアイデアを出してくれま



お母さんが生まれた町が好きです

昨年10月には、第31回全国町並みゼミ卯之町大会が開催されました。この大会には、多くの町づくりグループが参加し、協力し合いました。この事業にみんなで取り組んだという思いが喜びとなり、さらに、これを契機に、お互いが連携して協力し合おうという機運が盛り上がりました。こ

えひめ町並博2004から始めた「卯のほたる」は、ふるさとの灯りとして親しまれてきています。文化の里の中町界隈に竹製あん灯などが灯る時、行き交う人たちは、「ほつとして、和むなあ」、「灯りの中町は、いいなあ」などと、口々に言って通り過ぎます。

皆さんが、あん灯の出し入れや明かりの点灯などを、自主的に手伝ってくださいます。さらに、今年から家紋入りの高張り提灯をそれぞれの家で新調し、軒先に吊るしていただける家が出てきています。京都の業者に発注しますが、費用も安くはありません。本当に有難い協力です。子どもの頃の秋祭りの宵宮に家紋入りの提灯が明々と灯っていた郷愁が甦ってきます。

昨年の10月には、第31回全国町並みゼミ卯之町大会が開催されました。この大会には、多くの町づくりグループが参加し、協力し合いました。この事業にみんなで取り組んだという思いが喜びとなり、さらに、これを契機に、お互いが連携して協力し合おうという機運が盛り上がりました。こ

れまで単独で活動してきた各グループが集まる場を持ち、情報交換や事業協力をしていく「だんだんつながろう会」が発足しました。(09年1月22日発足)『力を出し合い、力を貸し合い、支え合い、そして だんだんつながる』ことを会の趣旨としています。

町づくりは、仲間づくりだということ。今年「卯のほたる」にも是非おいでください。お待ちしております。

みなさんの元気をいただき、62歳でも、今も旬な女として生きています。

ふるさとの灯り 「卯のほたる」からの報告

藤本 明美
「卯のほたる」実行委員長